

### 多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 手取川水系十八河原自然再生事業 ~工夫事例に対する評価~		
水系/河川名 : 手取川水系手取川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面積 : 809	整備計画流量 : 5000m <sup>3</sup> /s	セグメント : 1
事業 : 環境整備	事業開始年度 : 平成20年度	
目標設定 : 定性的	段階 : C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な) : 礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出		
工法(主な) : その他		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮		

#### 背景・課題、目標設定

##### <背景>

手取川は、かつて石の河原が広がっていたが、河川環境の変化により、近年では石の河原が減少し、岩盤がみられるようになってきている。石の河原の減少により、イカルチドリ、カワラハハコといった石の河原に生息・生育する生物が減少し、生物多様性が低下している。

##### <課題>

現在の岩盤河床を、石の河原に復元することが課題であった。

##### <目標>

手取川の石の河原が広がる原風景を再生し、生物多様性の保全を図ることを目標とした。



石の河原 (S9年)



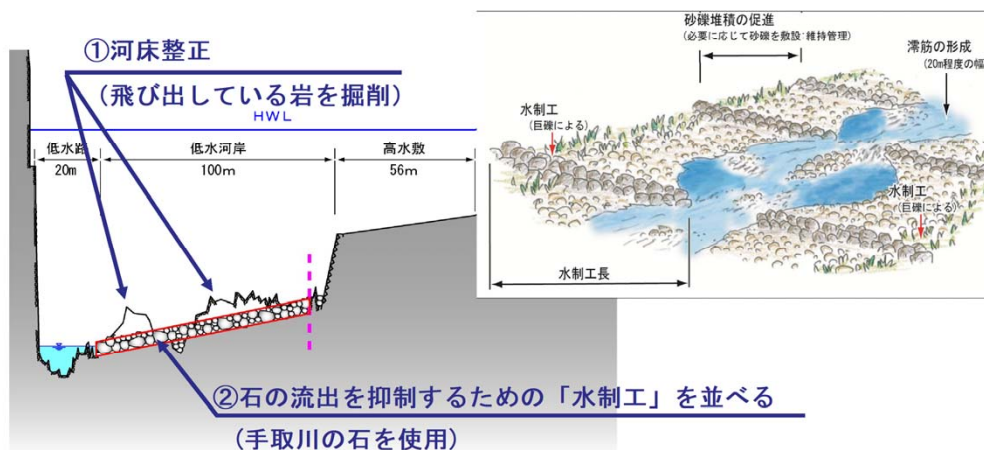
岩盤の露頭 (H18年)

#### 取り組み内容・対策例 (1/2)

##### <石の河原復元の工夫点>

###### ■工夫点

- ①比高差を小さくし冠水頻度を増加させるため岩盤河床を修正(掘削)
- ②石の流出を抑制するため、川の横断方向に水制工を整備



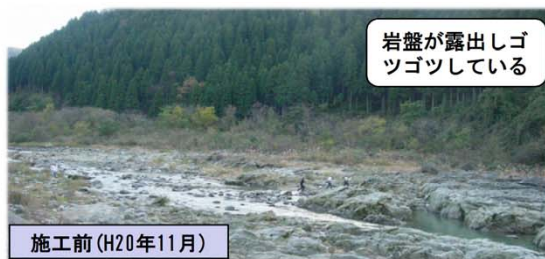
取り組み内容・対策例 (2/2)



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜工夫事例に対する評価＞

- ・水制工によって石の流出が抑制され、整備後9年経過した現在も石の河原の景観が維持されている。
- ・石の河原が復元したことにより、整備前には確認されなかったイカルチドリやカワラハハコなどの石の河原に依存する生物が確認されている。



石の河原を利用するイカルチドリ (R元年6月11日)



14.7k付近の石の河原に生育するカワラハハコ (R2年11月10日)

備考